

教科目名 技術者倫理 (Engineering Ethics)

学科名・学年 : 全専攻 2年

単位数など : 選択 2単位 (前期1コマ, 学習保証時間 22.5時間)

担当教官 : 鶴沢偉伸・今山清

授業の概要		
現代の快適な生活は科学技術によるところが大きく、技術をいかに利用するかという点が重要である。これからの技術者に必要な倫理観を身につけ、技術が社会および自然に及ぼす影響および技術者が社会に対して負っている責任に関して学ぶ。過去の事例に基づいて学生に自ら考えさせ、技術者として考えなければならない倫理について問題点の抽出と解決策について学習する。		
到達目標		大分高専目標 (A2), JABEE 目標 (b)
(1) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解する。 (2) 技術者が社会に対して負っている責任を理解する。 (3) 過去の事例を通して技術者が持ち合わせなければならない倫理観について自分の意見を述べるができる。 (4) 演習課題を通して技術者倫理のあるべき姿を考えることができる。		
回	授 業 項 目	内 容
1	技術者倫理の視点 (第1章)	事件事例の分析より防止策の立案へ展開することの重要性について学ぶ。
2	倫理と法 (第2章)	技術者倫理の位置付けや法律との関係について学ぶ。
3	個人、法人の責任 (第3章)	発生する事故に対する個人の責任と法人の責任について学ぶ。
4	専門職の倫理 (第4章)	専門家の誕生により専門家と素人の関わりがどのように変化したかを学ぶ。
5	安全性とリスク (第5章)	安全性とリスクはトレードオフの関係にあり、どこまで安全性を確保すべきかの判断基準について学ぶ。
6	倫理学の三理論 (第6章)	倫理学の代表的な三理論である徳倫理学、義務倫理学、功利主義について学ぶ。
7	内部告発 (第7章)	企業の内部告発による問題点について考え、人権保護の重要性について学ぶ。
8	企業における倫理	企業の目的と社会的責任、企業が求める価値基準と行動基準、企業における技術者倫理について学ぶ。
9	倫理的問題の解決策 (第8章)	倫理をめぐる諸問題を「事実的問題」「概念的問題」「線引き問題」の三つに分けて考察することを理解する。
10	地球的視野をもつ技術者の倫理 (第9章)	他国で技術者として働くときに生じる問題について考察し、地球的視野をもつことの重要性を理解する。
11	社会問題化した事件事例	社会問題化した事件事例をとりあげ、土木技術者を対象とした具体的な技術者倫理を学ぶ。
12	土木技術者が遭遇する倫理問題	研究段階、計画段階に関連する事例をとりあげ、具体的な技術者倫理を学ぶ。
13	技術者倫理に関する演習課題	今日的課題である「説明責任」「透明性の確保」に対して、土木技術者が直面するであろうさまざまな局面を想定した演習問題を通して、「リスクの予測と技術者倫理に基づく分析と対応能力」の必要性を理解する。
14	前期期末試験	事前に提示されたテーマについてレポートを提出する。
15	前期期末試験の答案と解説	提出したレポート内容に基づき、各自の意見を発表する。
履 修 上 の 注 意		環境破壊に関する問題を理解し、環境に対する技術者の基礎知識を学習していることが望ましい。
教 科 書		藤本温ら, 「技術者倫理の世界」, 森北出版
参 考 図 書		
関 連 科 目		「環境保全工学」
評 価 方 法		最終成績=レポートの評価60点+授業態度評価40点 授業態度評価はディスカッションの発言回数と内容、講義での学習態度を毎回確認した資料に基づいて行う。なお、欠席した場合は減点する。

